

2018年度第3四半期 業績の概要

2019年2月14日

日本生命保険相互会社
Nippon Life Insurance Company

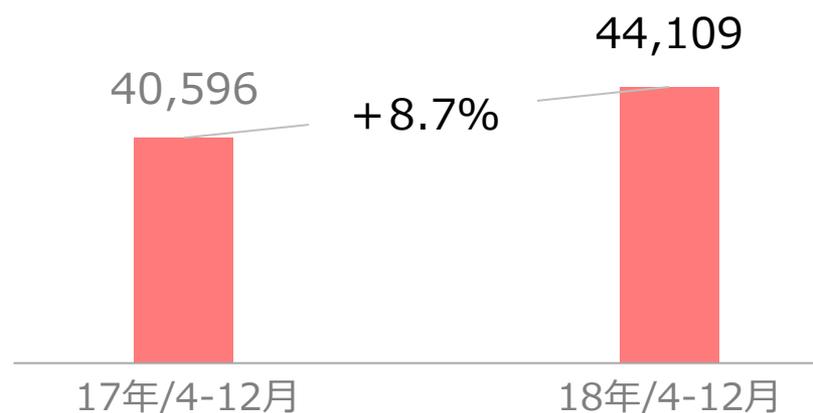
1 グループ概況

2 国内生命保険事業

【参考】グループ各社の概況

- 2018年度第3四半期決算の連結業績は前年同期から増収・増益。
- 保険料等収入は、ニッセイ・ウェルス生命の新規連結に加え、日本生命での銀行窓販商品の販売増加や、商品相互供給を通じた日本生命グループを挙げての保険販売により増加。
- 基礎利益は、利息及び配当金等収入の増加を主因に増加。また、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映や、MLC Limited（以下MLC）の増益が増加額拡大に寄与。

保険料等収入 (単位：億円)



基礎利益

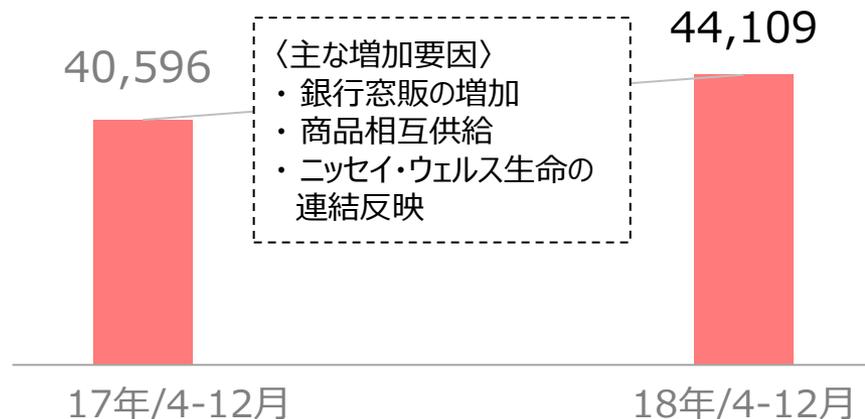


※ ニッセイ・ウェルス生命（旧マスマチュアル生命）を2018年度第1四半期より連結反映（以降同様）

- 銀行窓販の増加を主因に前年同期より増収。
- 日本生命での外貨建商品の好調な販売や円建商品の販売再開等を主因に、銀行窓販チャネルの保険料等収入が増加。
- また、商品相互供給を通じた日本生命グループを挙げた保険販売への取組、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映が増収額拡大に寄与。

保険料等収入

(単位：億円)



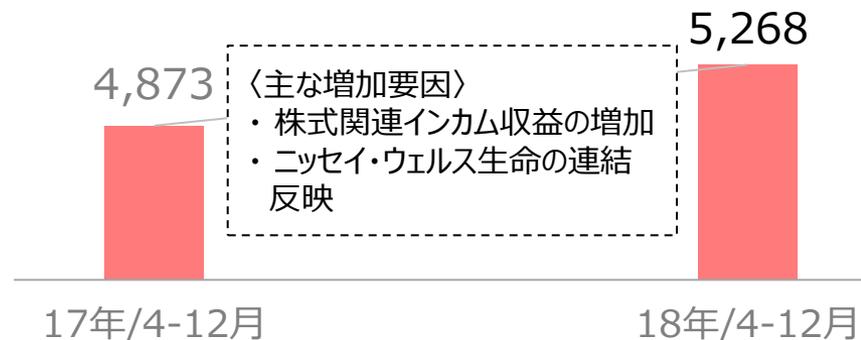
	2018年 4-12月	前年同期比
保険料等収入	44,109	+8.7%
日本生命	34,460	+1.9%
三井生命	5,850	+16.7%
ニッセイ・ウェルス生命	2,050	-
MLC	1,463	▲3.7%

※ 合計値は連結保険料等収入
(日本生命、三井生命、ニッセイ・ウェルス生命、MLC、米国日生を対象に算出)

- 利息及び配当金等収入の増加を主因として前年同期から増益。
- 利息及び配当金等収入は、国内株式の配当金や外国株式等の投信分配金の増加を主因に増加。
- さらに、MLCの増益やニッセイ・ウェルス生命の連結反映により増益額が拡大。

(単位：億円)

基礎利益

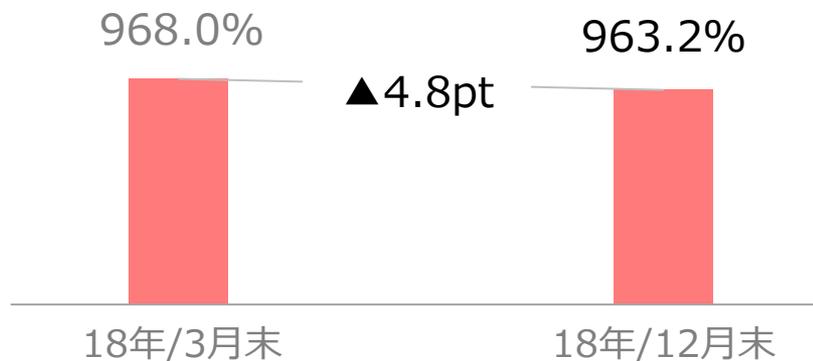


	2018年 4-12月	前年同期比
基礎利益	5,268	+8.1%
日本生命	4,680	+4.2%
三井生命	313	▲14.7%
ニッセイ・ウェルス生命	200	—
MLC	82	+97.9%

※ 合計値は日本生命の基礎利益、三井生命の基礎利益、ニッセイ・ウェルス生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、一部の内部取引調整等を行い算出

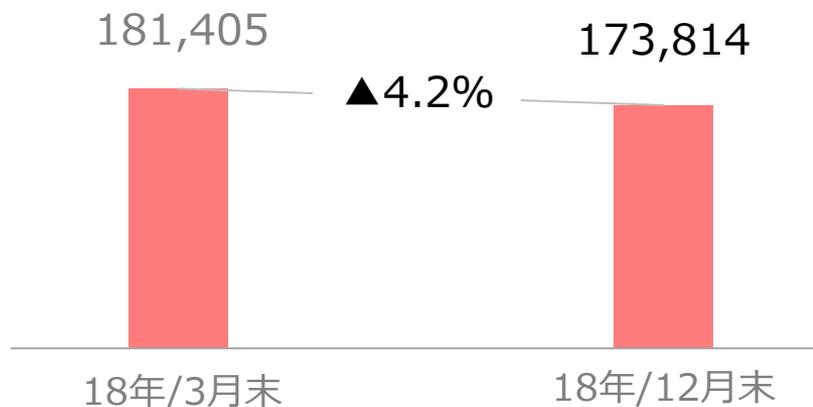
- ソルベンシー・マージン比率は、諸準備金等の積増や劣後ローン調達を通じて、自己資本を着実に積増したものの、有価証券の含み損益が減少したことを主因に前年度末から減少。
- 実質純資産についても、有価証券の含み損益が減少したことを主因に前年度末から減少。

ソルベンシー・マージン比率



実質純資産

(単位：億円)



損益計算書

- 三井生命での有価証券売却益の減少を主因に経常利益は前年同期から減少。
四半期純剰余は増加。

(単位：億円)

	2018年 4-12月	前年同期比
経常収益	59,689	+5.2%
保険料等収入	44,109	+8.7%
資産運用収益	13,412	▲7.3%
経常費用	56,096	+5.8%
保険金等支払金	33,630	+5.5%
資産運用費用	3,417	+23.4%
事業費	6,071	+3.1%
経常利益	3,592	▲3.1%
(基礎利益)	5,268	+8.1%
四半期純剰余(利益)	2,090	+9.3%

貸借対照表

- 総資産は、ニッセイ・ウェルス生命の新規連結を主因に前年度末から増加。

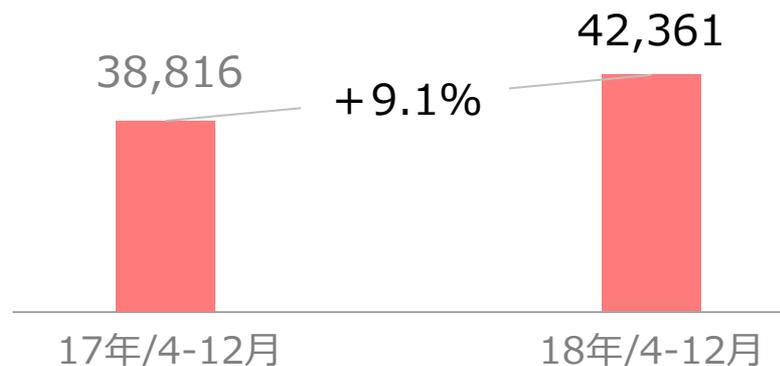
(単位：億円)

	2018年 12月末	前年度末比
総資産	772,582	+3.9%
うち有価証券	626,581	+4.2%
うち貸付金	85,938	▲0.4%
うち有形固定資産	19,104	+2.8%
負債	711,294	+5.4%
うち保険契約準備金	649,617	+5.6%
うち責任準備金	635,219	+5.6%
うち価格変動準備金	14,755	+9.6%
純資産	61,288	▲11.5%

- 国内の保険料等収入について、個人保険・個人年金保険の増加を主因に増加。
- チャネル別では、日本生命における商品改定に伴う外貨建商品の好調な販売や、円建商品の販売再開等により、銀行窓販チャネルが増加。さらに、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映により増加額が拡大。
- 団体保険は減少し、団体年金保険についても、厚生年金基金の解散等の減少に伴う受管減少を主因に減少。

保険料等収入（国内計）

（単位：億円）



	2018年 4-12月	前年 同期比
保険料等収入（国内計）	42,361	+9.1%
うち個人保険・個人年金保険	30,442	+15.3%
営業職員等チャネル	25,525	+3.3%
銀行窓販チャネル	4,917	+192.5%
うち団体保険	2,162	▲3.1%
うち団体年金保険	9,226	▲4.5%

※ 日本生命、三井生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値

- 国内の個人保険・個人年金保険の新契約は、経営者向け保険の販売減少による影響はあったものの、2018年4月から販売開始した日本生命の新商品「ニッセイみらいのカタチ 特定重度疾病保障保険“だい杖^{じょう}ぶ”」の販売が好調であったことに加え、日本生命における銀行窓販チャネルの販売増加や、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映等を主因に増加。

(単位：億円、万件)

個人保険・個人年金保険

	年換算保険料		件数		保障額等	
	2018年 4-12月	前年 同期比	2018年 4-12月	前年 同期比	2018年 4-12月	前年 同期比
国内計	3,537	+29.4%	394	+37.0%	73,963	+28.4%
営業職員等チャネル	2,259	▲11.7%	384	+36.0%	67,809	+23.2%
銀行窓販チャネル	1,277	+624.5%	9	+97.3%	6,154	+139.4%
日本生命	2,100	▲12.0%	373	+38.6%	62,546	+25.3%
三井生命	404	+16.6%	19	+3.8%	8,625	+12.4%
ニッセイ・ウェルス生命	1,031	-	1	-	2,791	-

※ 国内計・チャネル別内訳は、日本生命、三井生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値

- 国内の個人保険・個人年金保険の保有契約は増加。
- 団体保険・団体年金保険についても、順調に推移。

(単位：億円、万件)

個人保険・個人年金保険

	年換算保険料		件数		保障額等	
	2018年 12月末	前年度末比	2018年 12月末	前年度末比	2018年 12月末	前年度末比
国内計	44,801	+7.4%	3,433	+5.2%	1,827,816	+0.5%
日本生命	37,044	+1.1%	3,142	+4.5%	1,599,082	▲1.1%
三井生命	5,175	+2.2%	259	+1.1%	197,197	▲2.1%
ニッセイ・ウェルス生命	2,581	-	31	-	31,536	-

団体保険・団体年金保険

	団体保険 (保障額等)		団体年金保険 (受託資産等)	
	2018年 12月末	前年度末比	2018年 12月末	前年度末比
国内計	1,098,037	+1.0%	165,405	+0.9%
日本生命	972,140	+1.8%	131,096	+2.0%
三井生命	125,897	▲5.0%	8,069	▲2.5%

※ 国内計は、日本生命、三井生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値
 ※ 団体年金保険の国内計には、ニッセイアセットマネジメントの投資顧問残高(22,322億円)、確定拠出年金の投資信託(日本生命販社分3,905億円)を含む

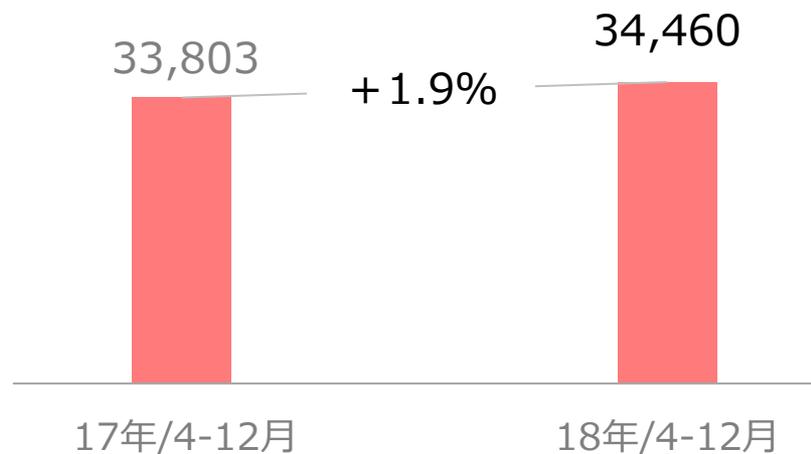
【参考】
グループ各社の概況

【参考】日本生命（単体）：収支

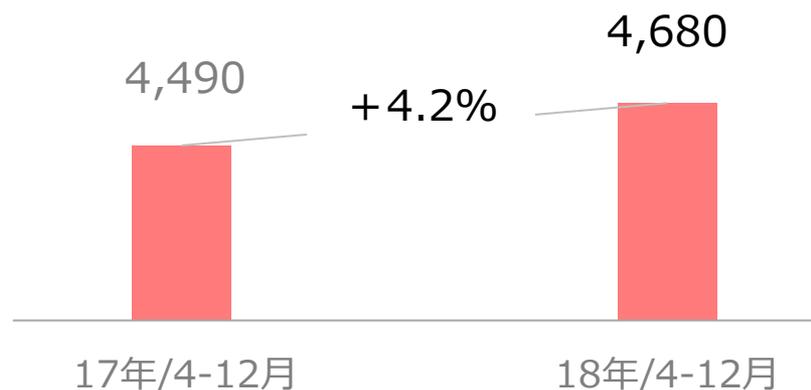
(単位：億円)

- 日本生命単体は前年同期より増収・増益。
- 保険料等収入は、外貨建商品「ロングドリームGOLD 2」（ニッセイ指定通貨建積立利率変動型一時払終身保険）の商品改定(2018年10月)や、円建商品「夢のかたちプラス」（ニッセイ予定利率変動型一時払増終身保険）の販売再開(2018年8月)等による銀行窓販チャネルでの増加を主因に増加。
- 基礎利益は、株式関連の配当金・投信分配金の増加を主因に増加。

保険料等収入



基礎利益

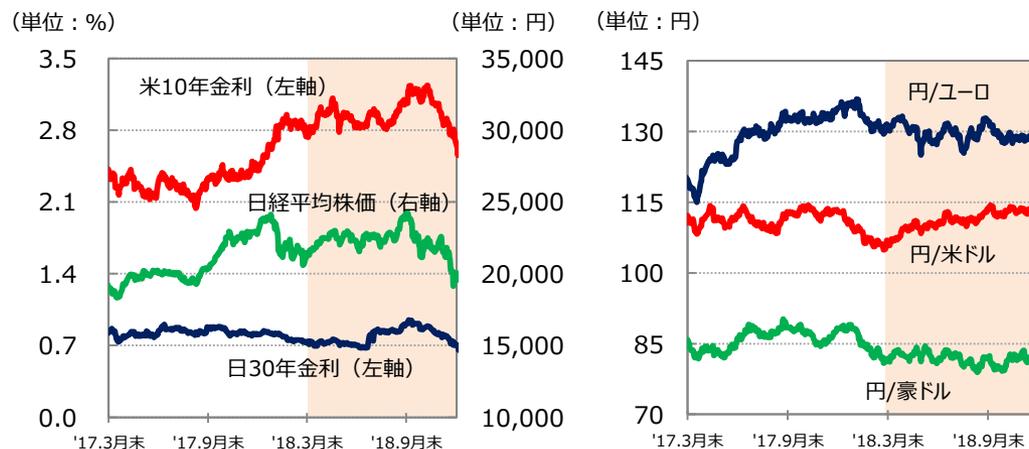


資産運用収支（一般勘定） （単位：億円）

- 資産運用収支は前年同期より減少。
- 資産運用収益は、内外株式の売却益が増加したことや、株式関連の配当金・投信分配金が増加したこと等を主因に増加。
- 資産運用費用は、有価証券売却損や金融派生商品費用が増加したこと等を主因に増加。

	2018年 4-12月	前年同期差
資産運用収益	11,993	+438
うち利息及び配当金等収入	10,270	+199
うち有価証券売却益	1,664	+365
資産運用費用	2,623	+805
うち有価証券売却損	1,060	+564
うち有価証券評価損	139	+100
うち金融派生商品費用	761	+174
資産運用収支	9,370	▲ 367

マーケット状況

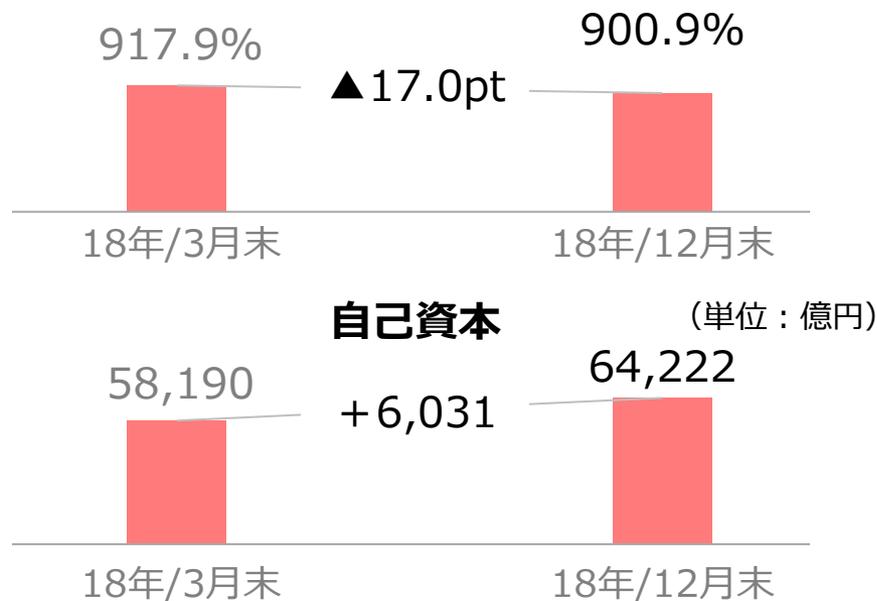


【参考】日本生命（単体）：健全性

■ 劣後ローン調達に加え、危険準備金・価格変動準備金の着実な積増等によって自己資本は前年度末から増加したものの、有価証券の含み損益の減少を主因にソルベンシー・マージン比率は減少。

■ 有価証券の含み損益については、内外株価の下落により、国内株式や外国株式等の含み損益が減少したことを主因に前年度末から減少。

ソルベンシー・マージン比率



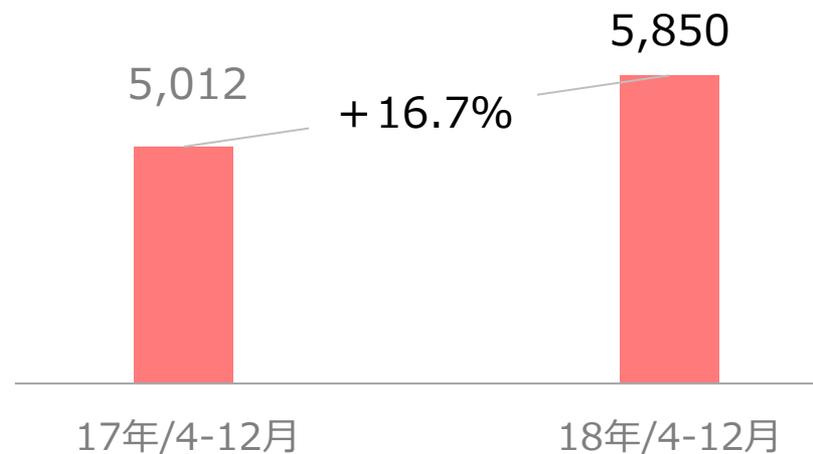
有価証券 含み損益 (単位：億円)

	2018年 12月末	前年度末差
時価のある有価証券	94,302	▲ 11,170
公社債	38,167	▲ 667
国内株式	39,915	▲ 8,077
外国証券	14,462	▲ 2,192
その他	1,756	▲ 232

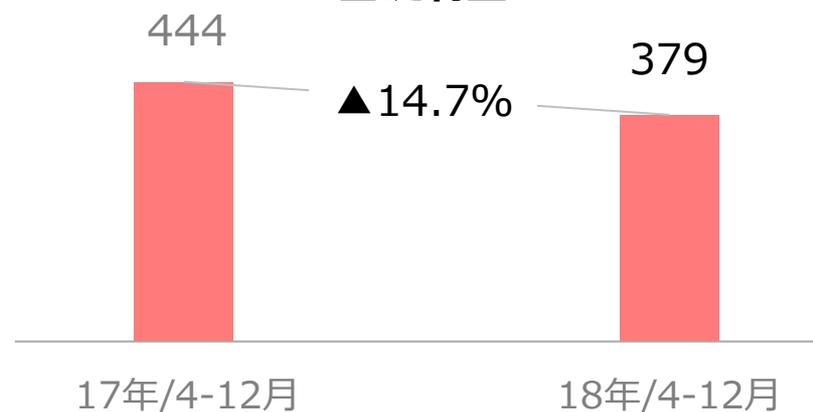
(単位：億円)

- 三井生命は前年同期から増収・減益。
- 保険料等収入は、2017年10月より開始した日本生命への外貨建商品「ドリームロード」（無配当一時払外貨建生存給付金付特殊養老保険）の供給が奏功したこと等を主因に増加。
- 基礎利益は、過去に販売した変額年金保険等の最低保証に係る責任準備金戻入の減少等により減少。

保険料等収入



基礎利益

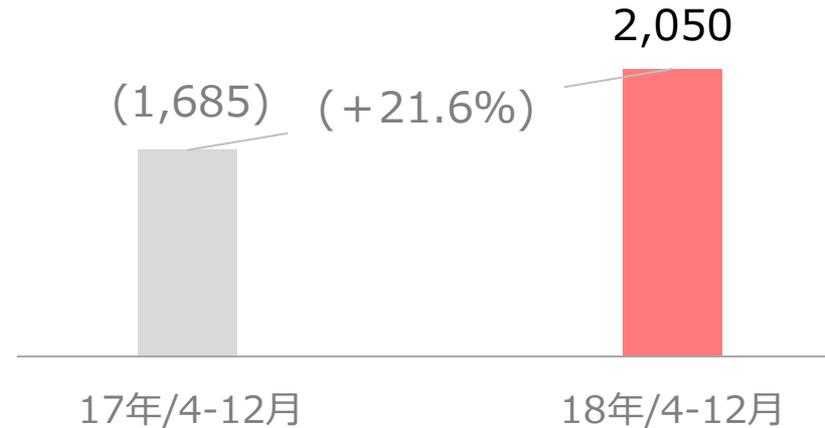


※ 単体の数値を記載

(単位：億円)

- ニッセイ・ウェルス生命は前年同期より増収・増益。
- 保険料等収入は、相対的に高い米金利水準等によって米ドル建一時払商品の魅力が向上したことで、主力商品の定額年金や生存給付金付終身保険の販売が好調となったことを主因に増加。
- 基礎利益は、利息及び配当金等収入の増加を主因に増加。

保険料等収入



基礎利益



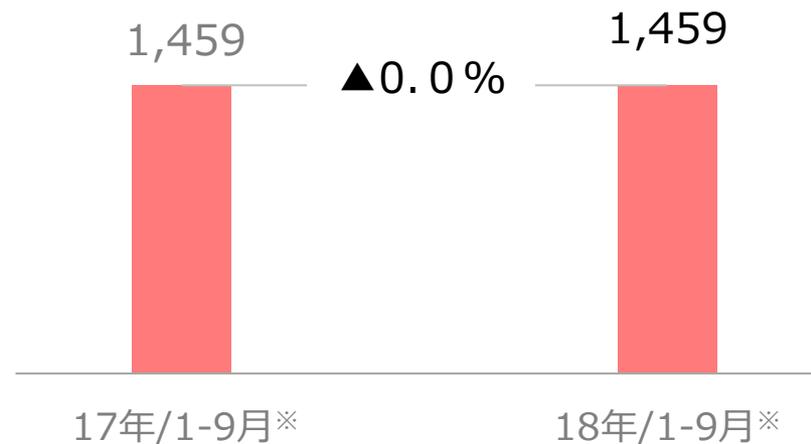
※ 単体の数値を記載

※ 2018年度から連結反映を行ったため、前年同期の値および増加率は()にて記載

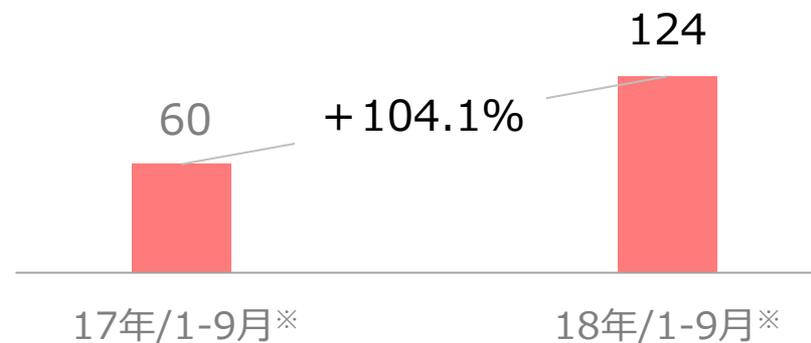
(単位：百万豪ドル)

- MLCは前年同期から増益。
- 規制変更や競争環境が厳しさを増すなか、収入保険料は前年同期並みの水準を確保。
- 前年度一時的に増加した費用の減少等を主因に前年同期から税引前利益は増加。

収入保険料



税引前利益



※ 単体の数値を記載

※ 第3四半期決算では1-9月期を連結反映